会報 安曇野教育

第６３号

発行所　安曇野市教育会　　発行日　令和元年６月２８日
発行人　坂槙　邦章　　題　字　川　田　　殖
編　集　会報委員会

プラス思考の新たな一歩

常任委員長　坂槙邦章

去る五月十日（金）の定時総会において代表理事（会長）にご承認いただき、安曇野市教育会百三十一年目の新たな一歩を踏み出すことができました。また、五月十八日（土）の総集会には、大勢の会員の皆様にご参集いただき、盛会のうちに終えることができました。ありがとうございました。安曇野市教育会では、本年度も、各種委員会推進、実技講習会実施、同好会活動支援等の『調査・研究事業』、安曇野の先人等に学ぶ会、安曇野の子どもを語る会実施等の『講習・行事事業』、会報発刊等の『広報活動』、また、『郷土文化財センターの運営』等の事業や運営に取り組んで参ります。会員の皆様の積極的なご参加とご協力をお願いいたします。

さて、先日、本年度あらたに調査研究委員になられたある先生から、次のようなお話をいただきました。「自分がなぜこの委員会の委員になったかよくわからない。当然希望したわけでもない。この委員会がやろうとしていることも難しくて自分にはよくわからないことが多い。でも、この委員会に興味がないわけではない。だから、委員になったからには、ぜひ自分の考えていることを進めていきたいと思うがどうですか」という内容でした。今まで進められてきた委員会の内容を大きく方向転換することについては、正直言って戸惑いを感じました。しかし、そもそも教育会の活動は『会員自らが求めるものを大事にし、それを支援すること』ですし、何よりこの先生が与えられた機会を前向きに受け止め、「やらされている」ではなく、「やりたい」という強い思いで取り組んでくださろうとしていることに感銘を受け、申し出を受け入れ、支援することにしました。

このように『会員の主体的な参加・参画により、教職員の資質・職能の向上や生涯学習の充実を目指す』という教育会の理念をこれからも大切にし、『人と人とのつながり』を介して、安曇野市教育会も『プラス思考の新たな一歩』を踏み出していきたいと思います。

令和元年度安曇野市教育会役員・会務の分担

役　職	氏　名	所　属	会務分担	【担当委員会】
会長（代表理事）	坂槙　邦章	堀金小	会務全般	
理　事	丸山　福一	事務局	会務全般	
理　事	宮澤　純子		会務全般	
監　事	曽根原　弘	三郷小		
監　事	伊藤　和子			
常任委員長	飯嶋　正成	豊科北小	会務全般	
常任副委員長	丸山　広樹	豊科南小	会務全般	【会誌編集委員会】
常任委員	土松　丞司	穂高北小	調査研究	【人権教育委員会】
常任委員	長瀬　克彦	明北小	調査研究	【人物読み物委員会】
常任委員	早川　正美	明南小	講習行事	【キャリア教育委員会】
常任委員	宮澤　浩	穂高西中	講習行事	【図書館教育委員会】
常任委員	濱野　久	豊科北中	広報 郷土文化財センター	【郷土文化財センター委員会】
幹　事	奥原　竜司	豊科北中	会務全般	【教育課題運営委員会】
幹　事	唐沢　信好	穂高南小	調査研究	【社会科資料集編集委員会】
幹　事	河合ちほえ	豊科東小	調査研究	【展覧会委員会】
幹　事	小平　伴紀	明科中	講習行事	【木村素衛委員会】
幹　事	大野　幸児	穂高西小	講習行事	【情報委員会】
幹　事	山口　敬之	明北小	広報 郷土文化財センター	【会報委員会】
事務局長	丸山　福一	事務局		
事務職員	髙山　万寿	事務局		
議　長	馬淵　勝己	三郷小		
議　長	佐柳　美穂	明北小		
信濃教育会常任委員	坂槙　邦章	堀金小		
信濃教育会代議員	丸山　広樹	豊科南小		
信濃教育会代議員	飯嶋　正成	豊科北小		

令和元年度 教育会総集会開かれる

令和元年度安曇野市教育会総集会が、五月十八日（土）午後一時三十分より、豊科公民館大ホールにて開催された。

音楽同好会の先生方による「ほらね、」の素晴らしい混声合唱で幕を開け、安曇野市歌「水と緑と光の郷」を全員で斉唱した。

坂槙邦章会長の挨拶のあと、信濃教育会会長後藤正幸様代理小松信美様、安曇野市教育委員会教育長橋渡勝也様からお祝いの言葉をいただいた。開会行事に続いて、郷土文化財センター委員会先生による研究発表と、「日本人は歴史から何を学ぶべきか」と題して静岡大学名誉教授・文学博士である小和田哲男先生の講演会が行われた。

郷土文化財センターの歩み

郷土文化財センター委員会
藤松慎一郎先生（豊科北小）
山科　亮太先生（穂高西中）

～会員研究発表～

会員研究発表では、郷土文化財センターの過去・現在・未来について発表があった。

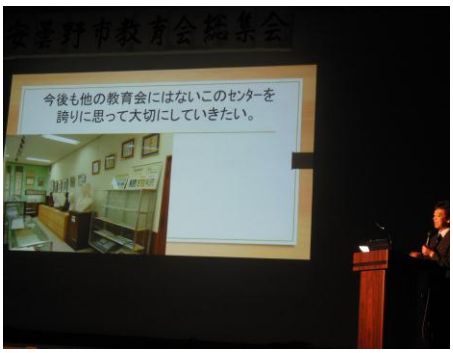
南安曇教育会館の一階にある郷土文化財センターは、他郡市の教育会に比べてかなり広いスペースに多くの展示物を所蔵している。これほど大きく博物館のようなものは他では見られない。

昭和三十三年、教員と地域の方の熱意で、前南安曇教育会館が建てられた。当時の教育会の活動は活発で多くの収集品や研究物があった。昭和四十三年、本館の資料室が手狭になり、教育会八十周年記念事業の大きな目玉として、敷地の北側に郷土文化財センターの前身である「参考館」が建てられた。長野市の信濃教育会館にも「参考館」があり、信濃教育会の動向を理想としていた南安曇教育会の高い理念のもとに、同じように参考館を建設したのではないかと考えられる。

その後、現在の南安曇教育文化会館の建設にあたっては、参考館の理念を継続して郷土文化財を大切に考え、広いスペースを惜しみなく使った設計となった。地域に広く門戸を開き、地域とともに歩むという当時の南安曇教育会の教育理念の高さが現在のセンターを存続させていると考えられる。

本格的な展示陳列コーナーや書、絵画も多く所蔵され、著名な画家から先輩方の作品まである。また信濃教育会博物館にもない木村素衛日記もある。さらに展示室隣の究室には多くの書籍があり、その奥の収蔵庫には、昔の教科書や古文書が収蔵されている。収蔵品の中には、維持管理が難しく、費用がかかるものもあった。平成二十六年度には危機的状況にあった蝶の標本などの収蔵品を安曇野市に寄贈し、市の予算で少しずつ修復してもらっている。

今後の郷土文化財センターの展望として、更なる収蔵品の収集・維持・管理に努めること、収蔵品のデジタルデータ化を図り、目録として残すこと、また広いスペースを活用して、企画展・特別展・個展を開く場所と利用していくことを考えている。ぜひ多くの方に訪れてもらいたい。

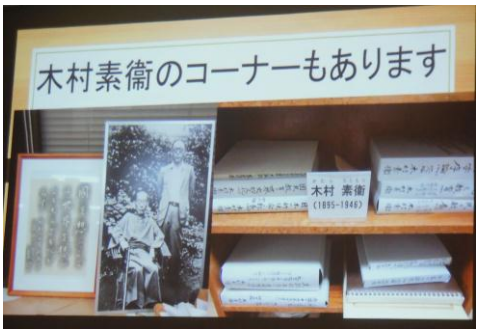


藤松先生の発表をお聴きして

（豊科北中）

大変失礼かと思いますが、今まで「郷土文化財センター」というものに余り関わりがなく、何のためのどんなものかという知識が殆どありませんでした。今回藤松先生のお話をお聞きして、多くの方の熱意と努力によって、文化財センターが成り立っているのだということ学ぶことができました。

明治二十一年に事務局が設立されてから、昭和四十三年に参考館の設立に至るまでの歴史や先人の思いを知り、また現在の教育文化会館内に移転された経緯をお聞きして、大変貴重な文化施設なのだと感じました。地域の方も利用できるようにと会館の一階半分を文化センターとし、地元安曇野の絵画や書、土偶、標本等々が数多く展示されていると知りました。現在に至るまでに関わってこられた方々の「理念の高さ」が参考館の存続につながっているのだというお話を聞きました。また、モデルとなった信濃教育会に足を運んで文化財センターの歩みを解き明かそうとしている運営委員会の姿勢に、大変感銘を受けました。



講演（概要）～

日本人は歴史から何を学ぶべきか

静岡大学名誉教授
大和田哲男　先生

よく「歴史は鏡である」と言い方をする。歴史書では、鏡という言葉がよく使われる。歴史を学ぶことは、過去を鏡に映して未来を照らすと捉えることができる。歴史は単に過去を追憶するものではなく、自分たちの生き方に生かしていくものである。

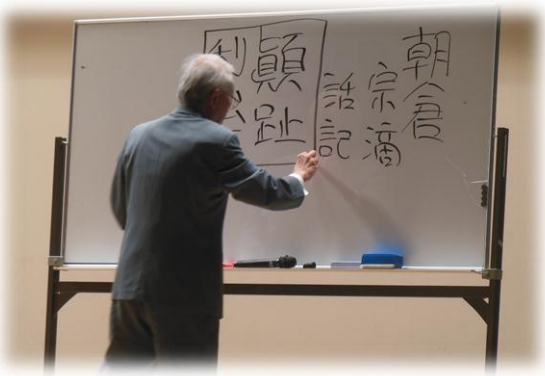
歴史は、光の当て方で見え方が違ってくることがある。見方によって歴史上の人物評価が変わって来る。足利義政は応仁・文明の乱においては、東山銀閣で趣味三昧の生活をし、お寺や庭造りをして浪費した張本人とされてきたが、「三体詩抄」によると民衆たちの苦しみを理解し、飢える人々に対し手を差し伸べ、西芳寺に人を呼び、庭造りの仕事を与えたということが書いてある。資料を読むと、従来言われてきたことについても違った見方をすることができる。

歴史を学ぶ意義の一つは、「生き方の指針をつかむ」ことである。織田信長は、道を必要度に応じてランク付けをし、幅を広げてまっすぐに通した。敵に攻められないように川に橋をかけないという従来の考え方とは異なり、川に橋を架けた。商品流通経済のためであった。楽市楽座や関所の撤廃などは信長の優れたところである。しかし競争人事を行うことで本能寺の変を起こしたところが欠点である。秀吉は信長のやり方を見て学ぶだけでなく、失敗から振り返っている。播磨の三木城攻めの反省を生かし、因幡鳥取城攻めでは兵糧米を買い占めることで「戦わずして勝つ」ことを実践した。家康は信長と秀吉の良さを生かし、悪い面を変えていった。多くの家臣を失った時には絵師に徳川家康の「神君おしかみの像」を描かせたと言われている。慢心しそうになった時にその絵を見、大敗北を糧にしながら乗り越えていったとも考えられる。

歴史を学ぶ意義のもう一つは、「社会は常に変化することを知る」ということである。飢饉の時には食べ物が不足し多くの命が落とされたが、そこから必ず復興している。不撓不屈の精神、負けじ魂を持った先人たちの力である。そういう勇気を受け継ぎ、現在の我々がいるのだと考えることができる。幕藩体制のように制度疲労によって「変革」が求められた。変化・変革を恐れない魂を培うことが大切である。自分も歴史を動かす歯車の一つであると考える。「政治は政治家が行えば良い」という考えがあるが、一揆や米騒動のように権力に立ち向かって戦った時期もある。

歴史を学ぶ面白さは、研究が進むと定説・通説がそのままではなくなることである。山本勘助は以前実在しない軍師とされていた。しかし、新しい資料が発見されることにより、山本勘助は手紙を届ける重要な役割をしていたことが分かってきた。また、考古学と歴史学をドッキングさせることで新しい発見が出てくる。歴史の研究は果てしなく、通説、定説は変わるかもしれない。そしてそれが歴史の面白さ、また醍醐味である。

歴史を振り返ることで次にどう生かしていくのか、歴史上の人物の失敗や行いから学ぶこと。徳川家康が歴史の覇者になれたのは、歴史を学んだからであると言える。



小和田哲夫先生のお話をお聴きして

（三郷中）

「歴史とは何か」という問いに、小和田先生は、「歴史は鏡。過去を鏡に映して未来を照らす。歴史は未来の為にある」「先人たちがやってきたことを受け止めて、自分たちの生き方に活かす指針を得るためのもの」ということを具体的な事例と共に教えて下さいました。

私が興味深く思えたエピソードのひとつは、織田信長の道路整備のことです。戦国時代の街道は、敵方の進行を遅らせたり、阻止したりする為に狭く曲がりくねり、橋も架けられていませんでしたが、信長は、真っ直ぐで道幅のある街道に変え、橋も架けました。それにより商人たちが街道を行き来しやすくなり、物流が活性化し、経済が大きく発展したということです。戦国版のインフラ整備で、当然のことをしたと思えたのですが、当時としては常識を覆す出来事だったと知り、当時と今の道路に対する考え方の違い、信長の発想を当時の人はどう思ったのか、などいろいろなことを考えさせられました。

普段、歴史を意識することはあまりありませんが、日常の様々なことが歴史と深く繋がっているのだなと感じました。

各種委員会年間活動計画

安曇野の人づくりに資する各種委員会活動

担当常任委員

教育は人づくりと言われます。その対象は子どもたちであるのは当然ですが、私たち自身もここでつくられる「人」の範囲に含まれているのではないかと思います。

日々の教育は教員自身が媒体となってその声、その眼差し、その振舞いや発想で子どもたちに働きかけています。授業中、私たちは子どもたちの「瞳の輝き」を願いますが、子どもたちもまた私たちに「瞳が輝いている先生」の姿を期待しています。瞳が輝くのは向上心や探求心があり、実際に何らかの積極的な行動を起こしているからとも言えるでしょう。

安曇野市教育会では教師の力量や職能を向上させるための公益目的事業として各種委員会活動が行われています。そこでは若い先生からベテランの先生まで一緒になって調査研究等に取り組み、結果を会員にも役立つ形で残してくれています。

今年度も十二の委員会が活動を始めています。私たち自身の視野や見識を高める内容となっています。取り組みにご注目ください。

◎委員長　○副委員長
・委員
▽研究テーマ　▼内容

調査研究委員会

教育課題委員会

◎　○
・　・
▽プログラミング教育の課題～具体的な実践を通して明らかになったこと～
▼①プログラミング教育の勉強会
②各校への調査アンケート
③教材業者からの情報収集（技術・家庭科同好会との協力）
④委員の学校での実践
⑤課題の決めだし
※今後活動をしていく中で活動内容が若干変わっていくことも考えられます。

人権教育委員会

◎　○
・　・
▽豊かな人権感覚を育てるための指導のあり方。
▼①各学校の人権教育の実践を集め、実践資料集に資料を追加していくとともに様式のユニバーサルデザイン化を図り、資料の活用を促す。
②各学校で行われている人権教育についてのアンケートを実施し、人権教育強調月間等で扱う内容や資料、講演会についての情報を集め、まとめる。

図書館教育委員会

◎　○
・　・
▽学習・情報センターとしての機能を果たす図書館において、図書館資料を使っての学習活動の充実を図るための担任、司書教諭、図書館司書の連携のあり方について考える。
▼①図書館資料を使っての学習活動の実践や取り組みについて研究し紹介する。
②各校の司書教諭・図書館教育係図書館司書、公共図書館司書の先生方との研究協議会を開催し、授業を提案して、各校や先生方との連携を図る。

特別委員会

社会科資料集編集委員会

◎　○
○　・
・　・
▽安曇野市の子どもたちが、自分たちの住んでいる地域を体験的に学習できる社会科資料集を編集する。
▼①学習に活用できる安曇野巡検として、今年度は、梓川を見学。（奈川渡ダムや幹線水路など）
②資料集作成に向けてデータの更新、資料収集、写真撮影。写真を多用し子ども達が身近に感じ、活用しやすい資料集の作成。
③社会科学習に生かせる資料や情報の提供。

キャリア教育委員会

◎　○
・　・
▽安曇野におけるキャリア教育の現状と展望～望ましいキャリア教育の進め方と指導方法のあり方を探る～
▼①「進路指導資料集」の内容検討、改訂版作成、頒布。
②各学校のキャリア教育の実際について調査活動を行い、課題について検討していく。また、キャリア教育の四つの視点をもとにした授業実践の分析と考察を行い、キャリア教育の成果と今後の課題を明らかにしていく。

人物読み物委員会

◎　○
・　・
▽安曇野にゆかりのある偉人について各委員が分担し、調査研究を行い、児童生徒への教材化を視野に入れながらその業績をまとめる。
▼先人たちの業績やエピソードを調査研究し、安曇野市教育会のホームページ「安曇野の偉人」に掲載する。
本年度の調査候補人物
・井口香山　・笠原宗司
・尾崎喜八　・西沢銘菓
・飯沼信義　・松岡　弘
また、郷土史研究を専門とする講師の先生にご指導いただきながら資料を作成する。

木村素衛委員会

◎　○
・　・
▽木村先生の日記等遺稿文献および西田幾多郎先生の木村先生宛

書簡の整理・研究を通して、安曇野市教育の拠り所である木村先生の徳を追慕し、その生き方を学ぶ。

▼①判読が終えた日記の読み直しや木村先生にかかわる資料から、木村先生の生き方を学ぶ。

②「安曇野の先人に学ぶ会」において、木村先生の日記の読み合わせや紹介を行い、多くの方に伝えていく。

◎郷土文化財センター運営委員会○

▽センター内の所蔵品の維持管理を進める。本年度は収蔵品のデジタルデータ化に着手する。また、教育会の諸行事に併せて常設展示の工夫をすると共に、会報を通して広報活動を行う。

①新任者歓迎研修会や安曇野の先人等に学ぶ会、哲学講座に併せ、センター開放日を設定。展示を工夫し、多くの会員が見学できるようにする。

②調査した所蔵品等について、会報『安曇野教育』の「郷土の文化財」のコーナーで紹介する。

◎展覧会運営委員会○

▽科学展・書道展・図工美術展・ものづくり展を開催し、市内の児童・生徒の自然事象への興味関心を高めるとともに、表現・製作活動への意欲高揚を図る。

▼同好会と連携しながら、教育会主催の四大展覧会の作品募集と審査、展示を企画運営する。入選者には賞状を授与する。

◎会誌委員会○

▽安曇野市教育会の会誌「安曇野教育」第十四号を発行し、会員の教育実践や研修内容を会員や地域の方に知っていただく。

▼会員の「教育・研究実践」「心に残る一言」「青年教師の主張」などの他、本教育会独自の「巻頭座談会」やシリーズ「先輩こんにちは」「安曇野遺産」、県外視察報告「視察紀行」などを掲載する計画である。本年度から、郷土の先人として、安曇野の文人について掲載する。

広報委員会

◎会報委員会○

▽会報『安曇野教育』の編集・発行を行う。本教育会の行事や事業内容、各種委員会の様子や同好会の様子について掲載し、機関誌としての使命を果たす。

▼会報六十三号から六十六号の発行（六月、九月、十二月、三月の予定）。また、必要に応じて速報を発行する予定。

◎情報委員会○

▽安曇野市教育会に関する情報提供のサポート

▼①安曇野市教育会ホームページの更新作業

・会報の公開（個人情報の削除と校正）

・人物読み物委員会の資料公開

・基本データやその他の加除修正

・情報教育に関する資料の紹介や更新

②安曇野市内各小中学校のホームページチェックやネットパトロール

③情報モラル教育の推進と啓発

郷土文化43

令和最初のご紹介　山口蒼輪の日本画

一九一三年（大正２）堀金岩原の銀行家山口家の長男として生まれ、本名を肇といいました。十五歳で上京、日本美術学校で学び、中村岳陵教授に認められ「蒼輪」の号を与えられたのが十七歳。十八歳で当時の最高峰の権威であった日本美術院展覧会に「草」が入選。

一九五〇（昭和二十五年）享年三十六歳で突然倒れ、亡くなるまでに、素晴らしい作品を世に発表しました。画家の絵が、宝の一つにあります。二〇十七年には、八十二財団で個展を開かれた山口蒼輪の絵の魅力を確かめに、ぜひ見にお越しください。

（郷土文化財センター運営委員会）

東西南北

ミジンコの行方から

安曇野市に暮らし始めて三か月。アパートの窓の外一面に広がる金色の麦畑、学校から見える、日々色を変えていく北アルプスの姿に、安曇野の自然の豊かさを感じています。桜並木と芝桜そして田植えをしたばかりの水田に北アルプスが映る光景を初めて見たときは、本当に感動しました。

そんな折、理科の先生から、「授業でミジンコなどの微生物の観察をしたいが、見つからない。」と相談を受けました。話を聞くと、水田や用水、ため池等、色々な場所の水を集めてきて見たのだけれど、今年の低温のせいか時期のせいか、まったくと言っていいほど見つからないとのことでした。「授業の直前に田んぼの水をすくってくれば、簡単にミジンコや微生物の観察はできる」と思っていた私には、驚きでした。また、ミジンコを探して水田を回る中で、この美しい安曇野の田園風景は、農家の方々の努力によってつくられていることを再認識する機会となりました。

その地域の生き物を扱う生物分野の難しさと、慣れた単元でも丁寧に教材研究を行う大切さを改めて感じました。

（明科中）

初任者歓迎研修会

安曇野市に新たに赴任された先生方を対象にして、初任者歓迎研修会が五月三十日、南安曇教育文化会館で開かれた。

会に先立って、館内にある郷土文化財センターと視聴覚教育協会を見学し、百三十一年目を迎えた教育会に所蔵されている多くの収蔵物や視聴覚教材について、担当の先生方から説明を受けた。

研修会では、まず主催者、初任者の順に自己紹介を行い、初任者は出身やこの二ヶ月の感想等を話された。そして、坂槙邦章会長が、「三十一年目を迎えた歴史と伝統のある安曇野市教育会の仲間として、共に学んでいっていただきたい」と挨拶した。続いて安曇野市教育委会を代表して會田義教育指導室長、信濃教育会を代表して後正幸会長が、それぞれ温かい励ましの言葉初任者の先生方へ贈られた。

その後、三人の先輩会員が、歓迎の言葉として自らの実践体験から学んだことを話された。

先生（豊科小）は初任校での思出、自らのライフスタイルを紹介しながら、「仕事と家庭の両立はたいへんだけれども、周りの先生方や子どもたち、家族に支えられながら楽しみを感じている」「困ったときにはどんどん助けを求めてください」と話された。

先生（三郷中）は、「一人となる」「一つになる」と題して「二十代　導く教師」「三十代教師である」「これから　しなやかな教師へ」と自らの歩みを振り返り、「教師として歩んでいく過程で、どんな教師をめざしていくのかが大事だ」と話された。

先生（穂高西小）は、自らの生活サイクルを紹介しながら、「子どもについてこいというような指導をしても子どもはついてこない」「専門の教科でも、けん玉でもサッカーでも、自分のこだわりをもってほしい」等、日々心がけていることを話され、「これからいっしょに頑張っていきましょう」と結んだ。

最後に初任者を代表し

先生（豊科北中）が、多くの先輩方からの激励の言葉に感謝を述べ、「同僚の先生方や地域の方々と支え合い、学び合う姿勢を忘れずに、教師として人として、自分なりのこだわりをもって研鑽を重ねていきたい」と決意を述べた。

初任者の先生方の紹介　敬称略

（明　南　小）	（穂高南小）
（穂高東中）	（穂高南小）
（豊科北中）	（穂高西小）
（豊科北中）	（穂高西小）
（豊科南中）	（穂高西小）
（豊科南中）	（豊科北小）
（堀　金　中）	（豊科南小）
（堀　金　中）	（豊科南小）
（堀　金　中）	（堀　金　小）
（三　郷　中）	（三　郷　小）
（明　科　中）	（三　郷　小）
	（三　郷　小）

初任者歓迎会に参加して

（明南小）

美しい雄大な山々に見守られて安曇野市で教諭としてのスタートラインを出発してから、早くも二ヶ月がたちました。担任紹介で自分のクラスの子ども達と初めて対面したときの嬉しさと緊張と期待が混ざったような気持ちは、今でも鮮明に思い出せます。子ども達が「楽しい」「なるほど」「学んだな」と思える授業はどうしたらできるのか悩みは尽きません。ですが、分からないことを丁寧に教えてくれる先生方や元気いっぱいの子ども達に囲まれ、一緒に勉強して遊んでたくさん笑って毎日が楽しくてあっという間に終わっていきます。

初任者歓迎会では、先輩の先生方の気持ちの持ち方や子どもとの関わり方など参考になるお話をたくさんお聞きすることができました。また、同じ初任の先生方のお話も聞くことができ、学校の特色など様々な情報を交換することができました。歓迎会は短時間ではありましたが、とても有意義な時間を過ごすことができました。明るく健康に学び続ける姿勢を忘れずに、努力を重ねていきたいと思います。

編集後記

今年度最初の会報をお届けし、教育会の活動計画や教育総集会の様子をお伝えしました。今後も機関紙として、教育会の活動の様子をお伝えしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。